
王女と王子の許されない恋。

月宮夏樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

王女と王子の許されない恋。

【Nコード】

N0977A

【作者名】

月宮夏樹

【あらすじ】

その昔、神は二人いた――。しかしあることをきっかけに世界は分裂し、それぞれの世界の王という存在に世界を託し、神は深い眠りについた。それから新しい王が生まれ、死に、そしてまた新しい王が生まれた。そうやって何千年と時が経ち、また新しい王が誕生したのだった。その名をティーラ。稀に見るとも美しい王女だった。そして生まれ落ちてから十八年経ち、彼女に思いがけないことがおこってしまった……。片割れの王子『龍登』との強制結婚。最初は嫌がるが、どんどん運命に足を絡め取られていく――。

第一話 世界の終わりと始まり。（前書き）

その昔、神は二人いた――。

二人の神は一つの世界を二つの国に分け、それぞれ思うように造っていた。神の名をセデイス。そして、その片割れのもう一人の神の名を、ティトスといった。

セデイスは自然を愛し、また人も愛していた。しかし一方でティトスは文明を愛し、自然の命を削っていた――。そのせいで、ティトスが君臨する世界の大地は黒く焼け、緑も消えていった……。

セデイスはティトスには警告することしか出来なかった。言葉以外の干渉はしないと。それはお互いが決めた誓約。決して破ってはならない戒め。だが、ティトスの世界は変わらなかった。

そして起こったのが――世界の分裂。

世界の腐敗を止めるために、セデイスはやむおえなく使った最後の手段だった。その結果、セデイスの世界の腐敗を食い止められた。

それから人々はこの大切な事を忘れないために世界に名前をつけた。決して神の名を忘れないように、セデイスフレヴァーと。

だがセデイスフレヴァーの人たちは誰も、ティトスの世界がどうなっていたかはわからなかった。

それから何年か経ち、神セデイスは王という存在に世界を託し、自らは深い眠りにおちたのであった――。

第一話 世界の終わりと始まり。

その昔、神は二人いた――。

二人の神は一つの世界を二つの国に分け、それぞれ思うように造っていた。神の名をセデイス。そして、その片割れのもう一人の神の名を、ティトスといった。

セデイスは自然を愛し、また人も愛していた。しかし一方でティトスは文明を愛し、自然の命を削っていた――。そのせいで、ティトスが君臨する世界の大地は黒く焼け、緑も消えていった……。

セデイスはティトスには警告することしか出来なかった。言葉以外の干渉はしないと。それはお互いが決めた誓約。決して破ってはならない戒め。だが、ティトスの世界は変わらなかった。

そして起こったのが――世界の分裂。

世界の腐敗を止めるために、セデイスはやむおえなく使った最後の手段だった。その結果、セデイスの世界の腐敗を食い止められた。それから人々はこの大切な事を忘れないために世界に名前をつけた。決して神の名を忘れないように、セデイスフレヴァーと。

だがセデイスフレヴァーの人たちは誰も、ティトスの世界がどうなっていたかはわからなかった。

それから何年か経ち、神セデイスは王という存在に世界を託し、自らは深い眠りにおちたのであった――。

第一話 世界の終わりと始まり。(後書き)

まだまだ未熟ですがよろしく願いします!!

第二話 目覚め。(前書き)

読者様へのお知らせ(？)

・誤字・脱字は十分注意しているのですが、もしあった場合はすみません！

第二話 目覚め。

ああ、あれは——誰だろう。

知らない……けれど心の中で何かひっかかる。

あたしを呼んでいる。見覚えのあるあの顔で。

そうだ、あたしは知っている。あの人が誰なのか……。どうしてあたしを呼んでいるのか……。そう、もうすぐ、もうすぐなんだ……。

「また、あの夢かあ……」

まだ少し寝ぼけ気味の王女、ティーラが不機嫌に起き上がる。ちらりと時計を見て、更に不機嫌になる。

「……ん、まだ五時だったんだ。どうりで眠いと思った……」

そしてまたパタリと倒れこんで、寝息をたてながら気持ちよさそうに寝てしまった。

——しかし。

「おつはよう!!王女様!!朝ですよ」

宮廷の宮女、周羅^{しゅうら}だ。ティーラの世話をするが、年のほつは二、三歳周羅が上だった。顔は

だがそんなことを気にするでもなく、毛布をひっぺがす。

「王女様!!朝ですよ!あ・さ!!起きてください!!」

更には耳元で叫び始める。

「……朝って、まだ五時じゃん。……周羅ってばうるさいんだから。近所迷惑だね、絶対」

「悪かったですね、うるさくて。ですが起きない王女も王女ですよ?」

「うつ……」

不意をつかれて怯むティーラ。

「ま、早く朝食を食べて仕事をしましょう。今日は例の件でいろいろやらなければならぬですからね」

「……はいはい、分かってますよ」

こんな友達関係のようなティーラと周羅の朝はいつもこんな感じだったりする。

（そういえば周羅……ノックしてたっけ？してない気がする……）
そりゃそーだ。実際何の予告もなく入ってきていた。

（でもまあ、そこも結構周羅の良い所だったりするけどね……）

そう、宮女は皆必ず礼儀正しく、王女には絶対逆らわなかった。だけど周羅は違った。だから一番近くにおいていた。そんな彼女とももうすぐ別れなければならない気がする。それは――。

「王女様……！急いで……！」

「はいはい……」

――あの不思議な夢の中の男が言うのだ、「行こう」と。

第二話 目覚め。(後書き)

第二話投稿させていただきました。
 やつとこさ(?) ティーラ登場です! 龍登は... まだです・結構あのような、そうでないような... もう少しお待ちください!
 では引き続きがんばらせていただきますv

第三話 事の始まり。

「王女様、食べ終わったようならさっさと仕事をしましょう」

苛々と周羅がせかす。仕事が嫌だったティーラがのでたらだと食事をとっていたからだった。実際三十分くらい居座っていた。

「じゃあ先行つて。着替えもしなきゃなんないしさ」

着替えといえば宮女にやつてももらうのが普通なのだが、ティーラはそうしない。

「はいはい、分かりました。ですが片付けるほうも迷惑になるのですよ。早く来てくださいね」

「はい」

パタン、とドアが閉められてようやくティーラは一息つく。

（そういえば……最近あの夢よく見るな……もうすぐつて、別にもうすぐあるつていえば誕生日パーティーくらいだし……疲れてんのかな……）

紅茶を飲みながらゆっくりと考える。

（でもまあ、夢なんかたいしたこと無いし。別にいいか）

そう考えると周羅に怒られないため、飲みかけの紅茶を一気に口に流しこみ、部屋に急いだ。

「着っ替っえ」着っ替っえ「今日はどの服がいいかな」

クローゼットの中からたくさんさんの服を出して歌を歌いながら、今日のファッションについて考えていた。ティーラは服に凝るほうだが、フリルが沢山ついたドレスなどは少なかった。ドレスはパーティーだけで、あまり好きではない洋服だったためだ。そのかわり動きやすい軍服が結構ある。ちなみにお気に入りは白い軍服でシンプルで良かった。

そのお気に入りの軍服を着て部屋を出ようとした。
その時。

「ティ、ティーラ様!!!」

突然誰かが部屋に駆け込んできた。それはもちろん周羅である。

「ど、どうしたの? かなり急いでるみたいだけど……」

思いがけない周羅にティーラは数歩ひく。

「大変なんです!!! まずは会議室へ来てください!!!」

「えっ、ちよつと……どうしたの?」

「いいから! 早く!!!」

口を挟む間も与えられなかった。だがこれは一大事だとすぐに悟った。

「わ、分かった! 会議室ね!!!」

「はい! 急いでください!!!」

とにかく事情を知るためにティーラは会議室へ急いだ。

会議室は城の最上階の一番右端にあった。だからどんなに急いでも

三分はかかる。だがそれは普通のひとにとってはの話だった。ティ

ーラは武術大会優勝者だったりする。当然足も速い。

所要時間一分。ある意味で恐ろしい。

「どうしたの!?!」

会議室に勢いよく飛び込む。そこにはティーラの従兄のライトや、

人狼族の長の葉樹はつなどがいた。

「それが……」

ライトが話そうか迷っていた。

「いや、俺から話そう」

第三話 事の始まり。（後書き）

ティーラはやはり特別な存在にしたかったので足を速くしてみました；（おい）

そして服です！服！フリフリのドレスは似合わないで、クローゼットは軍服だけです。割合で示すとすれば、ドレス2割、軍服5割、庶民の服1割、スポーツ関係2割ですね。

ティーラはときどき城下町におりて探検するのです。う。実は庶民の服は周羅以外には秘密にしてあるのですよ。宮女さんも分らないところにあります。

スポーツ関係は多いですね。ドレスと同じくらい。（笑）スキーでもサーフィンでも何でも来いって感じなんだと思います；

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0977a/>

王女と王子の許されない恋。

2010年12月10日10時42分発行